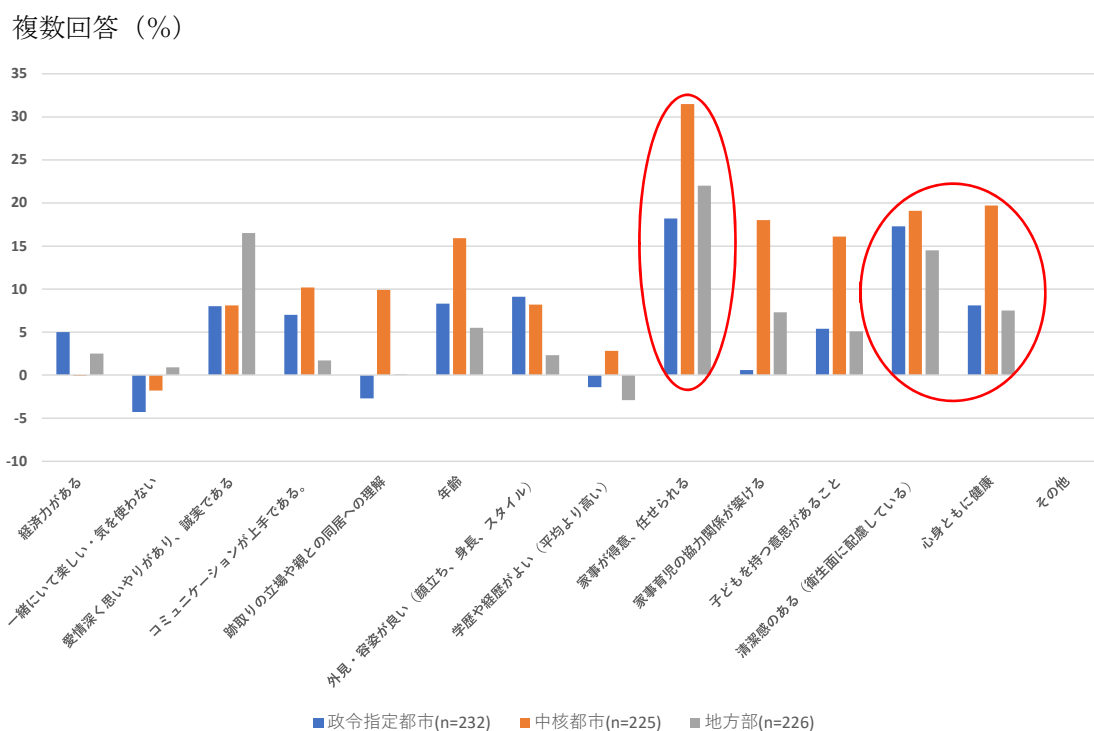


(7) 都市規模別にみる未婚女性の「結婚条件ミスマッチ」

女性は「家事が得意」「清潔感」「健康」という条件について、男性側が相手に求める条件との間に、認識のギャップがある。都市部在住女性では「外見・容姿」を過大評価する傾向。



内閣府子ども・子育て本部『結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』（ミスマッチ＝結婚相手から求められていると思う条件（女性回答率）－結婚相手に求める条件（男性回答率））

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・「結婚条件のミスマッチ」について、未婚女性は「家事が得意」「清潔感」「健康」といった条件を重要だと考えているが、未婚男性はそれほど重要とは認識していない。両者の評価の間にギャップがある。
- ・受講者に対しては、こういった調査結果もあるので、家事が苦手だと自分で思っている場合でも、そういった面だけで消極的にならないようにアドバイスしてほしい。

(8) 結婚には経済力が必要という思い込み

未婚者と既婚者の双方の金額に関する意識がわかるデータによると、未婚者は実際よりも過大に「結婚生活にはお金がかかる」と思いがち。

| 未婚者 | | | 既婚者 | | |
|-----|-------------|-------|-----|-------------|-------|
| 1位 | 400万～500万 | 23.6% | 1位 | 400万～500万 | 23.5% |
| 2位 | 500万～600万 | 20.1% | 2位 | 300万～400万 | 21.1% |
| 3位 | 300万～400万 | 15.2% | 3位 | 500万～600万 | 18.1% |
| 4位 | 700万～1,000万 | 12.4% | 4位 | 200万～300万 | 11.1% |
| 5位 | 600万～700万 | 10.0% | 5位 | 700万～1,000万 | 7.0% |

資料：明治安田総合研究所「20代～40代の恋愛と結婚―第9回結婚・出産に関する調査より―」
(2016年)より作成 ※〔全国の20歳～49歳の男女3,595人対象〕

天野馨南子 (2021) 『未婚化する日本』「結婚後に期待する相手の年収は？」
(未婚者 vs 既婚者) P142

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・自身の収入を気にしすぎることや、相手の収入水準に強いこだわりを持つことは、婚活を進めていく上で、結婚を妨げる要因の一つになる。
- ・結婚生活のために収入がどれくらい必要かは家庭の事情や住む地域によって異なる。また、このデータは、実際に結婚した夫婦が「思っていたほど収入がなくても、やっていける」と感じていることを示している。
- ・受講者の皆さんには、利用者が婚活において自身や相手の収入等を過度に意識しすぎることがないように、利用者にはアドバイスしてほしい。

(9) 未婚男女の「年齢危機感ミスマッチ」

- ① 18歳から34歳までの未婚男性の約6割がほぼ同年代の女性（2歳年下までの女性）と結婚希望。さらに、4歳年下までをほぼ同年代とすると、約7割の男性が同年齢ゾーンとの女性との結婚を望んでいる。

女性の希望

| | 男性との歳の差 | 割合 | 累計割合 |
|----|---------|-------|-------|
| 1位 | 1～2歳年上 | 29.6% | 29.6% |
| 2位 | おなじ歳 | 28.4% | 58.0% |
| 3位 | 3～4歳年上 | 20.6% | 78.6% |
| 4位 | 5～6歳年上 | 12.0% | 90.6% |
| 5位 | 7歳以上年上 | 5.6% | |
| 6位 | 年下 | 3.9% | |

男性の希望

| | 女性との歳の差 | 割合 | 累計割合 |
|----|---------|-------|-------|
| 1位 | おなじ歳 | 41.8% | 41.8% |
| 2位 | 1～2歳年下 | 14.9% | 56.7% |
| 3位 | 5～6歳年下 | 14.5% | 71.2% |
| 4位 | 3～4歳年下 | 12.0% | 83.2% |
| 5位 | 7歳以上年下 | 8.5% | |
| 6位 | 年上 | 6.7% | |

資料：国立社会保障・人口問題研究所（2015年）「第15回出生動向基本調査（独身者調査）」より作成
 ※〔2015年の独身者調査の有効票数は8,752票、夫婦調査の有効票数は6,598票〕

天野馨南子（2019）『データで読み解く「生涯独身」社会』「18歳～34歳の未婚男女の希望する「結婚相手との年齢差」ランキング」P67

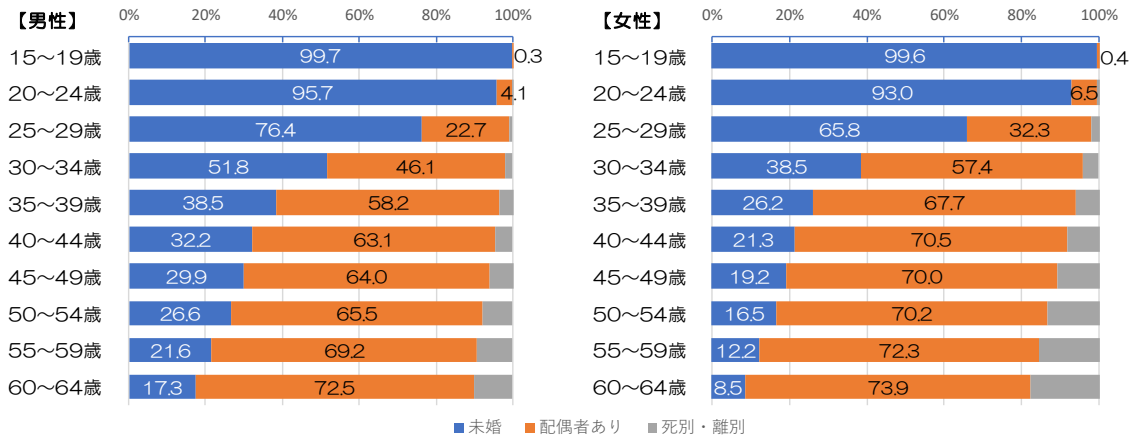
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・このデータからは、男性は、同年代や少し年下の女性との結婚を望んでいる傾向がみられる。
- ・しかし、女性は男性と比較して早く結婚していく傾向があり、年齢とともに未婚の女性はどんどん減っていく傾向にある。このため、男性は結婚を先延ばしにするほど、どんどん同年代女性とは結婚しにくくなっていく。
- ・一方、女性は少し年上の男性との結婚を許容する割合が高い。ちなみに少子化で急速に年下男性の人口が減少しているため、女性にとっても年下の男性との結婚は難しい傾向がある。男女ともに年下との結婚にこだわりが強いと結婚がしにくい状況といえる。

② 男性が30代前半にもなると、すでに希望している同年齢ゾーンの女性の約6割は既婚。その一方で、男性は約半数が未婚のまま。

男性が30代前半になってから同年齢ゾーンの女性と結婚を希望しても、結婚相手女性の「未婚相手マーケット」は大きく縮小。



天野馨南子 (2019) 『データで読み解く「生涯独身」社会』「年齢ゾーン別の未婚者の割合」P46 を基に更新

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・一般的に、女性は妊娠・出産との兼ね合いから、早い時期から結婚を意識するのに対して、男性はそういったことがないため、結婚を先延ばしにしがち。
- ・そのため、男性から見ると、結婚したい同世代女性は既婚割合が高く、また自分より若い世代の女性は未婚であっても自分と年齢の近い男性を選択する傾向が強いため、結婚希望が叶いにくい状況は年齢を重ねるごとに加速することになる。「結婚先延ばし」はむしろ男性にこそ大きなリスクがあるとも言える。

(10) 年の差婚がブーム！？ 実は…

芸能人カップルの、年の差婚が報道されて目立つ傾向があるが、実は、統計上、年の差婚はかなりレアケース。

➤若い相手との結婚を望むのならば、自分も若いうちから婚活を始めないと、希望をかなえるのは難しい。

| | 年齢差 | 婚姻数 | 割合 | 割合累計 |
|---|------|--------|-----|------|
| 1 | 同年齢 | 71,202 | 21% | 21% |
| 2 | 夫1歳上 | 46,166 | 14% | 35% |
| 3 | 妻1歳上 | 33,367 | 10% | 44% |
| 4 | 夫2歳上 | 31,309 | 9% | 54% |
| 5 | 夫3歳上 | 24,491 | 7% | 61% |
| 6 | 夫4歳上 | 19,190 | 6% | 67% |
| 7 | 妻2歳上 | 16,333 | 5% | 71% |

資料：厚生労働省「令和元年人口動態統計」より作成

天野馨南子（2019）『データで読み解く「生涯独身」社会』「初婚カップルの年齢差」P71 を基に更新

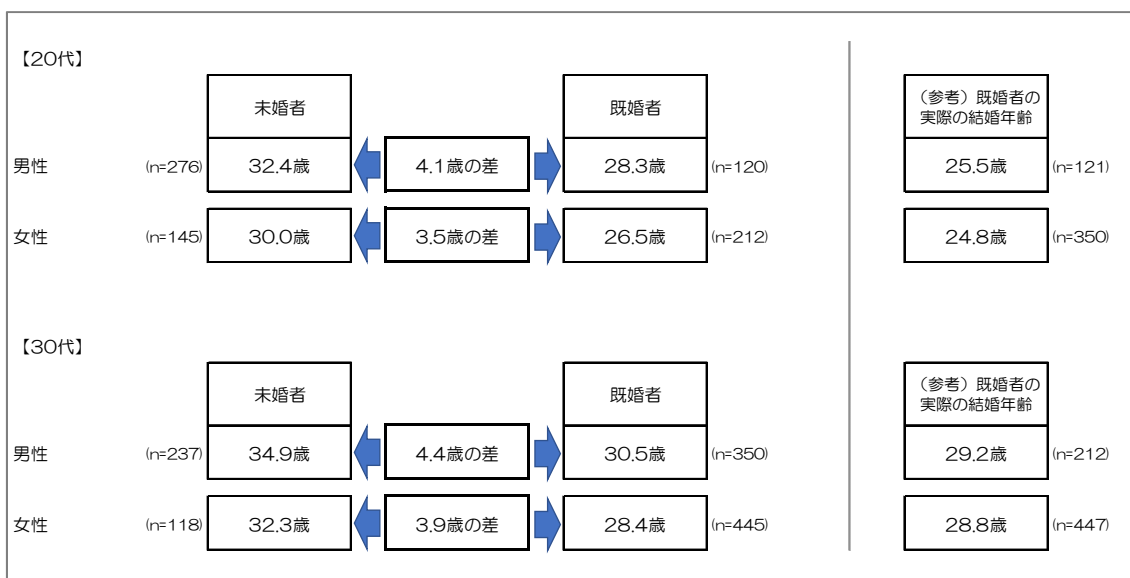
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・例えば 30 代後半以上で婚活を始めた男性だと、10 歳以上年下女性と結婚したいと希望することも多いかもしれない。しかし、このデータでみると、妻 2 歳上から夫 4 歳上までに 7 割超の結婚が集中しており、これに年齢差が当てはまらない（離れた）結婚は統計的にはかなりレアなケースといえる。

(11) 結婚希望年齢の違い

未婚者の自らの結婚希望年齢は既婚者よりも男女とも4歳ほど高く、実年齢とともに上昇。



天野馨南子 (2021) 『未婚化する日本』「結婚希望年齢の違い 未婚者/既婚者 (20~30代)」 P108

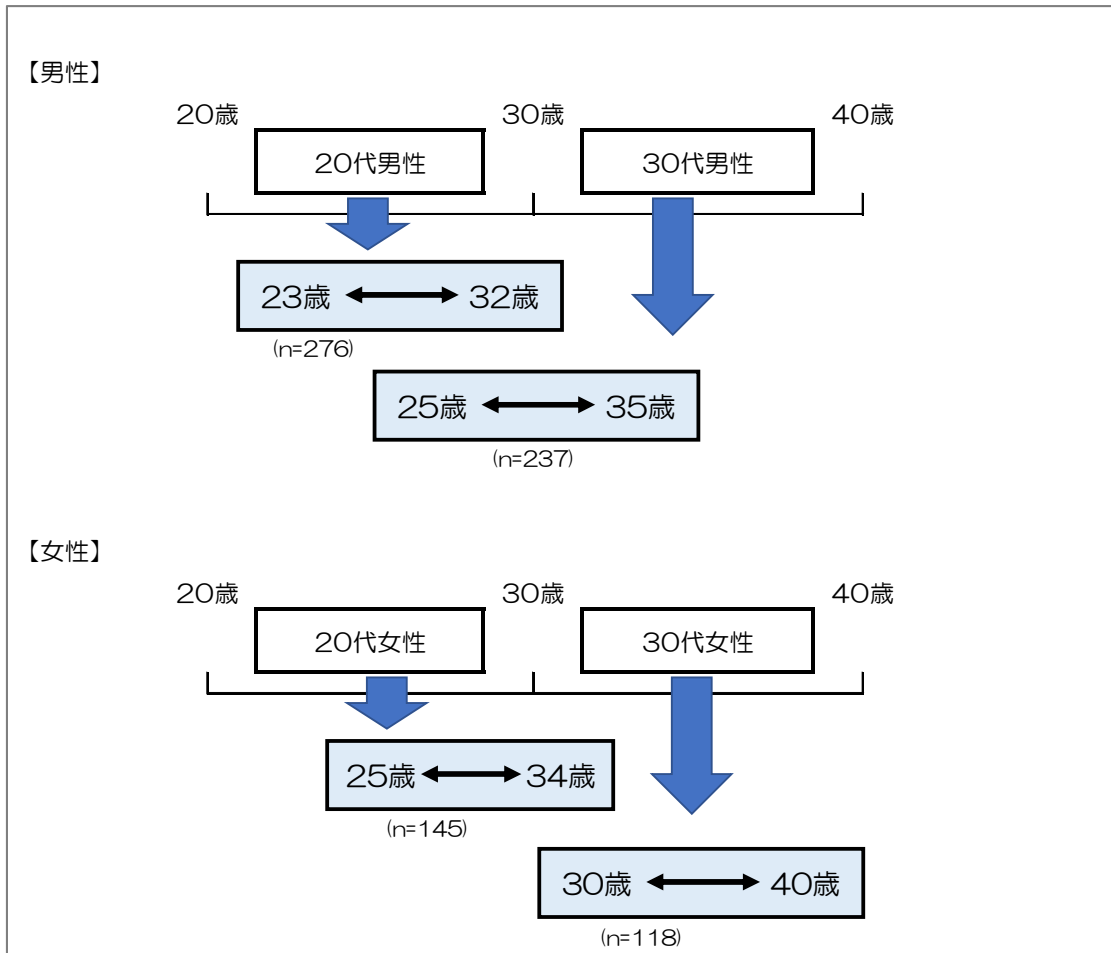
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・「結婚の希望年齢」と「統計的に実際に発生する可能性が高い結婚年齢」の差が、男女ともに結婚に至りにくくさせている要因になっている可能性がある。
- ・結婚希望願望がある地域の若者(特に男性)に対しては、年齢的に早いタイミングでの婚活開始を呼びかける必要がある。また、利用者に対しては、年齢差の大きい結婚を目指す、大きく成功率を下げるについて、なるべく早めに、少しずつでも、意識づけることを目指す必要がある。

(12) 求める相手の年齢のギャップ

未婚女性に比べて未婚男性は自己年齢が高くなるにつれて自分よりも年上拒否、年下選好の傾向が高まる。



天野馨南子（2021）『未婚化する日本』「求める相手の年齢ギャップ」P109

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・未婚男性は年齢上昇に従い年下選好が強まるが、そのことで一層結婚が難しくなることを伝える必要がある。

(13) 30代、40代女性で強くみられる独身に対する焦り

都市規模別に独身に対する焦りをみると、都市規模にかかわらず、30代、40代女性の間で特に回答割合が高い。

| | | n= | とても感じている | 感じている | どちらともいえない | 焦っていない | 全く焦っていない | (%) | |
|------------------|--------|-----|----------|-------|-----------|--------|----------|-------------------------|--------------------------|
| | | | | | | | | とても感じている+ 感じている 計 | 全く焦っていない+ 焦っていない 計 |
| 女性未婚者 | 全体 | 683 | 19.0 | 25.3 | 25.6 | 16.8 | 13.2 | 44.3 | 30.0 |
| 女性未婚者・ 政令都市在住 | 合計 | 232 | 18.5 | 27.2 | 28.4 | 11.2 | 14.7 | 45.7 | 25.9 |
| | 20~29歳 | 84 | 11.9 | 23.8 | 32.1 | 14.3 | 17.9 | 35.7 | 32.2 |
| | 30~39歳 | 73 | 27.4 | 30.1 | 23.3 | 8.2 | 11.0 | 57.5 | 19.2 |
| | 40~49歳 | 75 | 17.3 | 28.0 | 29.3 | 10.7 | 14.7 | 45.3 | 25.4 |
| 女性未婚者・ 中核都市在住 | 合計 | 232 | 17.3 | 22.7 | 23.6 | 21.3 | 15.1 | 45.7 | 25.9 |
| | 20~29歳 | 84 | 10.1 | 24.1 | 21.5 | 24.1 | 20.3 | 35.7 | 32.2 |
| | 30~39歳 | 73 | 23.3 | 27.4 | 19.2 | 19.2 | 11.0 | 57.5 | 19.2 |
| | 40~49歳 | 75 | 19.2 | 16.4 | 30.1 | 20.5 | 13.7 | 45.3 | 25.4 |
| 女性未婚者・ 地方部在住 | 合計 | 226 | 21.2 | 26.1 | 24.8 | 18.1 | 9.7 | 47.3 | 27.8 |
| | 20~29歳 | 81 | 9.9 | 21.0 | 30.9 | 22.2 | 16.0 | 30.9 | 38.2 |
| | 30~39歳 | 73 | 30.1 | 28.8 | 17.8 | 17.8 | 5.5 | 58.9 | 23.3 |
| | 40~49歳 | 72 | 25.0 | 29.2 | 25.0 | 13.9 | 6.9 | 54.2 | 20.8 |

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「自身が独身である点について、どの程度焦りを感じているか」より抜粋

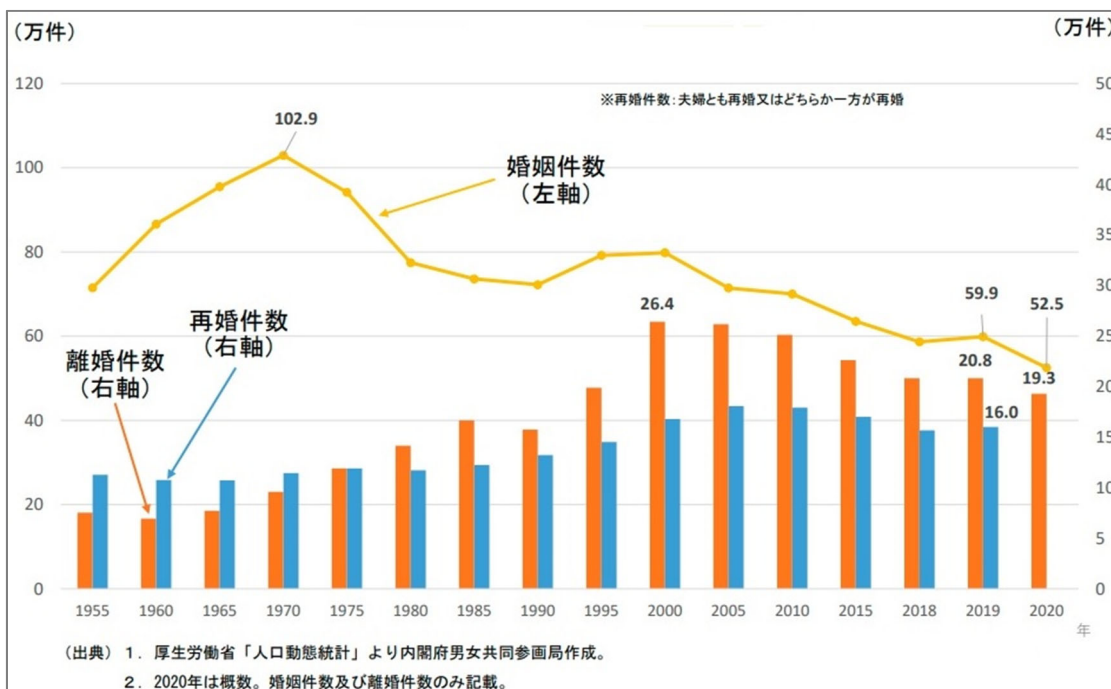
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・都市部と地方部では、仕事の状況や生活環境、人間関係などが違うため、同じ世代の男女でも結婚に関する意識に差があるだろうと思いきや、データをみると、それほど差はない。
- ・30代、40代の女性、特に30代については、都市部も地方部もほとんど変わらず、独身に対する焦りが大変高い傾向がみられる。
- ・都市、地方に関わらず女性（女性の親御さん）にとっては「妊娠・出産年齢」は気になるポイント。一方で周囲から「焦っている」とは思われたくない気持ちもある。そうした女性の心情を受け止め、出会いの機会、交際時間を増やすよう促す。
- ・早婚・晩婚に地域性はみられないため、男女ともに希望する相手がいた場合、積極的に行動することが重要である。

(14) 離婚・再婚の動向

離婚件数は、1960年代と比較して大幅に増加。2020年は、年間53万件的婚姻件数に対し、離婚件数は年間19万件、再婚件数は2019年時点で年間16万件。



内閣府男女共同参画局『結婚と家族をめぐる基礎データ』「結婚・離婚・再婚件数の年次推移」(令和3年7月26日)

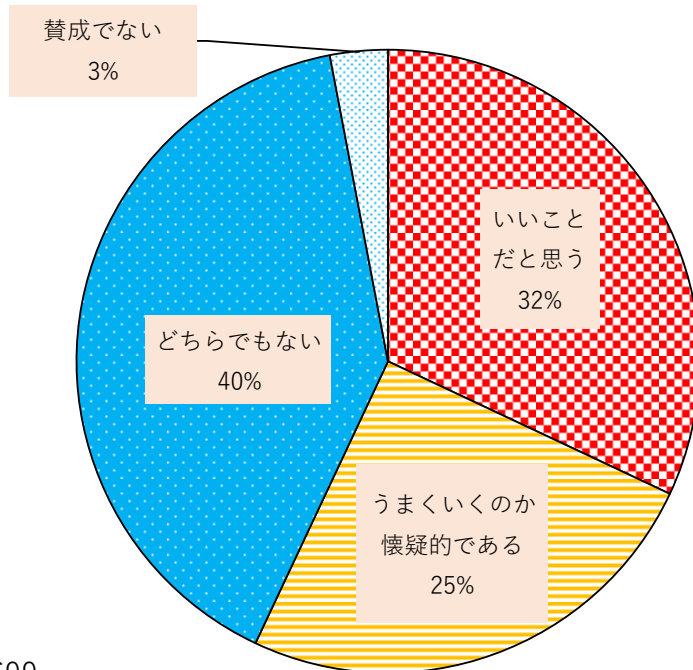
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚支援現場には、一度も結婚したことがない未婚者の方だけでなく、結婚したものの、様々な事情で独身に戻り、再婚を目指している方もいる。
- ・婚姻件数全体のうちで、実は再婚が約4分の1を占めるようになっている。
- ・センターの利用者には初婚だけではなく再婚を目指す方もいることを念頭において活動してほしい。

(15) ステップファミリーに対する認識

どちらかに子供がいる場合の再婚ケースの家族「ステップファミリー」に対する肯定的意見は32%。



n = 699

日本法規情報株式会社 (2018) 『ステップファミリーに関するアンケート調査』「ステップファミリーについての意見」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ステップファミリーとは、再婚や事実婚により、血縁のない親子関係や兄弟姉妹関係を含んだ家族のことをいう。
- 再婚された方々の家族は、「子連れ再婚」といわれ、新たな親子の関係に不安を持つ人も多い。
- ステップファミリーは、無理に「親子関係」「新たな家族」になろうというより、新しい「チーム」をつくるという視点で生まれた言葉で、日本では欧米に比べこの言葉はあまり浸透していない。
- また、受講生には、この言葉の意味も含めた新たな家庭の在り方の理解を深めるために、支援団体や専門家から学ぶ機会をつくってほしい。
- グラフは、子連れの再婚は良いイメージがなく、難しかったかもしれないが、このグラフの通り、今はネガティブなイメージを抱く人は3割弱しかいない。利用者が良いイメージを持っている可能性も高いので、受講生の皆さんも先入観を持たず、結婚支援にあたって頂きたい。